

少年少女世界名作全集

イソップ童話集

原作・イソップ

稗田 宰子



主婦の友社版

少年少女世界名作全集 16

イソップ童話集

	稗 田 幸 子
	イソップ童話集 主婦の友社 昭和51年(1976) 163p 21cm 〔分類〕 909

筆 者 稗 田 幸 子

発 行 者 石 川 数 雄

印刷・製本 凸版印刷株式会社

定価はカバーに表示してあります。

発 行 所 株式会社 主婦の友社

東京都千代田区神田駿河台1-6

郵便番号 101

電話 東京(03)294-1111(大代表)

落丁・乱丁はおとりかえします。 著者との話しあいにより検印廃止。

851.11 37074

少年少女世界名作全集

イソップ童話集

原作・イソップ

文・稗田宰子

絵・水野二郎



主婦の友社版

デザイン 駒宮録郎
装丁



や^ね屋根うらで ねずみが そうだんをしています。

「だれが ^{くび}ねこの首に すずを つけに いくのかね。」

と、おじいさんの ^{くび}ねずみが いいました。





「ほら おまえさんのおのを ^も持ってきてあげたよ。
さあ、うけとりなさい。」

と、^{かみ}神さまは ^{きん}金のおのを わたそうとしました。



「おまえたちが^み見た ^{どうぶつ}動物は これくらいかい。」
かえるのお父さんは、^{とう}大きく ^{おお}大きく ^{おお}ぱんぱんに
おなかを ふくらませようと思いました。

みなさんへ

二千五百年せん ひゃくねんも むかし、ギリシャの イソップという 人ひとが、生きて いくための 知ちえや 教おしえを たとえ話ばなしにして、おおぜいの人ひとに 話はなして、聞きかせました。

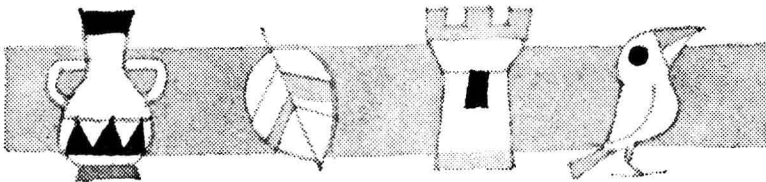
この 本ほんは、その 話はなしの 中なかから、有名ゆうめいな 二十の 話はなしを えらんで、みなさんに わかりやすいように 書かきました。

世界せかいじゅうの 子こどもが 読よんでいる イソップの 話はなしを、さあ あなたも 読よんでください。

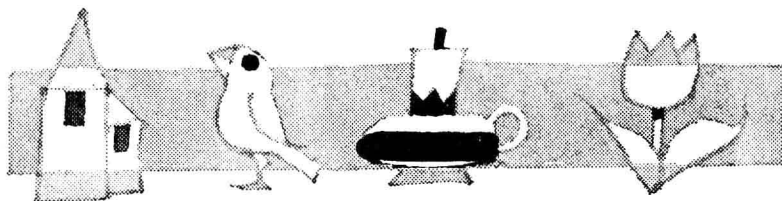
稗田ひえだ 宰子さいこ

もくじ

いなかの ねずみと 町の ねずみ	10
肉を くわえた犬	18
くまと ふたりの旅人	22
ねずみの そうだん	30
お日さまと 北風	36
ライオンと ねずみ	45
ひつじかいと おおかみ	52
王さまを ほしがる かえる	61
きつねと ぶどう	73
金の おの 銀の おの	76



わしと	からす	87
しおを	運ぶ ^{はこ} ろば	94
ありと	きりぎりす	100
牛と ^{うし}	かえる	105
おおかみと	子 ^こ ひつじ	111
こなひきと	ろば	117
かにの	お母 ^{かあ} さん	128
ライオンの	皮 ^{かわ} を	132
ひやくしょうと	むすこたち	139
きつねと	さる	145
ことばのまめ ^ち 知しき		157
ご両親や先生のための作品解説		158



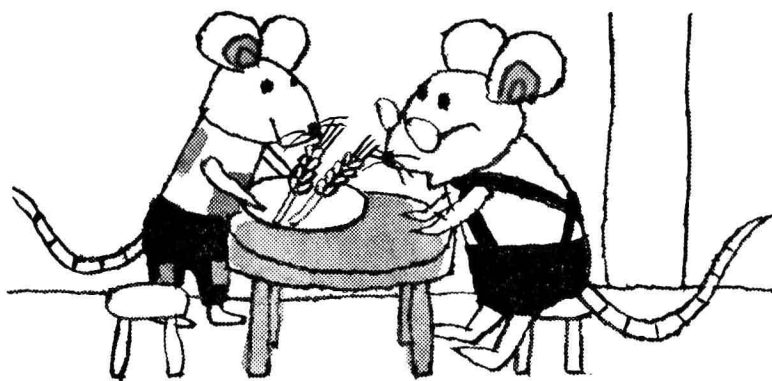
いなかの　ねずみと　町まちの　ねずみ

いなか　に　住すんでいる　ねずみと、　町まちに　住すんでいる　ねずみが　友ともだ
ち　に　なりました。

「いなかは　いいよ。　ねえ　きみ、　ぼくの　うちに　遊あそびに　こないか。
ごちそう　するよ。」

と、いなかの　ねずみが　いいました。

「ありがとう。　いかせて　もらうよ。　ぼくは　まだ　いなか　に　いったこ
とが　ないから、　いちど　いって　みたいと　思おもって　いたんだよ。」
町まちの　ねずみは　よろこんで、　いなかの　ねずみの　うちに　遊あそびに



いきました。

「よくきてくれたね。さあ、ごちそうを食
べて ください。」

と、いって、いなかの ねずみは、町の ねず
みに食事を だしました。

（へえ。これが ごちそうだって。おどろいた
ね。）

と、町の ねずみは 思いました。

いなかの ねずみが だした 食事は、大麦
と 小麦と 草の 根っこ だけだったのです。

「これが ごちそうだったら、きみは いつも

はもつと まずいものを食^たべて いるのかい。それじゃ、ありよりも ひどい くらしたよ。

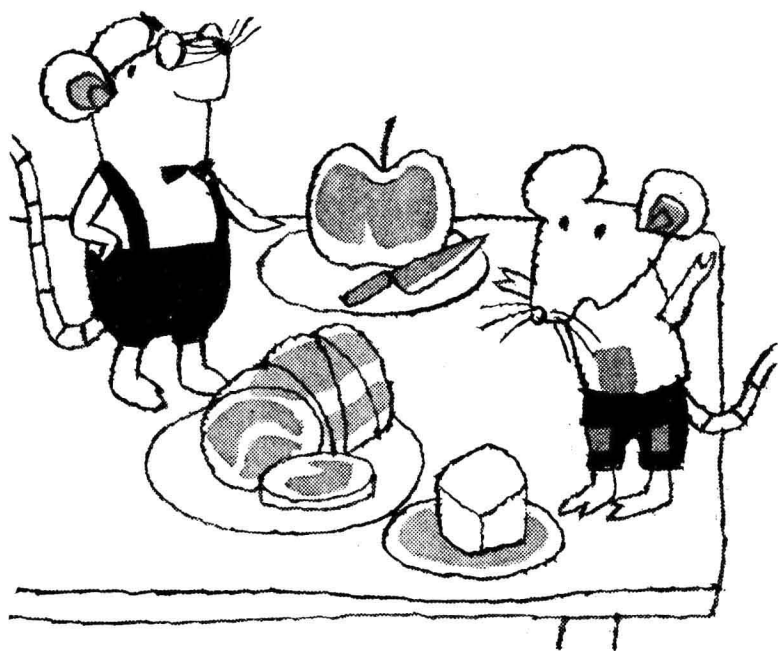
こんな いなかと ちがつて、町^{まち}は すてきな ところだよ。町^{まち}の ぼくの うちに 遊^{あそ}びに きてごらん。ほんとうの ごちそうを、おなか いっぱい 食^たべさせて あげるよ。」

と、町^{まち}の ねずみが いいました。

「ほんとうの ごちそうを おなか いっぱい 食^たべさせて くれるんだ ったら いくよ。」

いなかの ねずみは、町^{まち}の ねずみに つれられて、町^{まち}に きました。

町^{まち}の ねずみが 住^すんでいる ところは、大^{おお}きい 家^{いえ}の 食^たべ物^{もの}をし まっておく へやでした。



それで、チーズ はちみつ 肉
 おかしくだものなど、おいしそ
 うなものが たくさんありました。

「わあ すごいなあ。きみが い
 ったとおり、町^{まち}って すてきな
 ところだね。ぼくは いなか
 んかに 住^すんでいて、そんを
 したよ。」

と、いなかの ねずみが いいま
 した。

「さあ きみ、えんりよ しない

で、すきなものを おなか いっぱい 食^たべたまえ。」

と、町^{まち}の ねずみが、とくいそうに いいました。

「では、えんりょ なく いただきます。」

と、いって、いなかの ねずみは チーズを かじろうと しました。

そのとき、

ぎーっ。

と、ドアが あいて、へやの 中^{なか}へ だれかが はいって きました。

「にげろ。人間^{にんげん}だ！」

と、いって、町^{まち}の ねずみは、かべの われめに にげこみました。

いなかの ねずみは、わけが わからないけれど、町^{まち}の ねずみの あ

とから、かべの われめにはいりました。

「きみは、いなかで のんびり くらして いるから 知らないだらうけれど、人間にんげんは、ぼくたち ねずみを 見みつけたら、ころすんだよ。」
町まちの ねずみは、ぶるぶる ふるえながら いいました。

二ひきの ねずみは、しばらく かべの われめで じっと していま
した。

